





# 俳人布舟の墓

布舟は田中左太夫 通称 鍵屋孫右衛門と称す、家業酒造業に精励し酒造株十六株を保有したり、安永二年高砂の川浚人惣代として公共事業に盡力する一方諸國俳人と交流し、蕪村、青羅と親交ありたり。

文化五年九月二日 敬空宗君布舟居士

自然石の墓標 十輪寺裏に眠る。

平成元年十二月

合掌

敬空宗君布舟居士

開了宗波信士  
寶山榮珠信坊



旧高砂城主 梶原景秀公の由来

梶原一族は桓武平氏の流れをくみ鎌倉幕府の創立に貢献した。その後水軍を率いて当地に來り文明元年(四六九)頃高砂城を構築した。この地を基地として海外通商に雄飛し、東播地方に重きをなした。天正七年(一五七九)最後の城主景秀公は黒田官兵衛の仲介により羽柴秀吉に帰順した。またその子孫の一部は当地に留り、塩座役など勤めた。

高砂市観光協会





## 三浦一族の墓

三浦一族は桓武平氏の流れをくみ鎌倉幕府創立に貢献した。以後永年にわたり三浦半島中心に栄えていたが北條早雲に滅ぼされて永正十五年(一五八八)頃幼君義高公が当高砂に亡命した(高砂城主梶原氏との縁故を頼ったと考えられる)その子孫は江戸期に入って代々「塩や甚兵衛」と名乗り大庄屋を務めるなど行政その他の面に多大の功績をのこした。また学問の家としても有名で一族の中より迂斎、度斎、松石等の学者を輩出した。

高砂市観光協会







三浦一族の墓  
三浦一族は、鎌倉時代から明治時代まで、高砂市に多くの墓を築き、その歴史を刻み残している。この墓は、三浦一族の墓であり、その歴史を伝える重要な文化財である。高砂市観光協会が、この墓を保護し、その歴史を伝えるために、この墓を修復し、このように展示している。

高砂市観光協会

正室 杉國氏 名  
享和六年五月九日  
卒

賢  
昌

三浦  
昌  
昌

高砂市観光協会





有擬

濟輝院殿 義岳則氏大禪定門  
備前院殿 仁空惟道大禪定門  
雜德院 夏月妙社大師  
各靈紀念之寶塔  
林院觀音嶺岳妙社大棟

大兵宗後居女  
日岳清歌大姉

龍童子  
宗童子

右衛門自傷

明治七年七月  
明治七年七月





昭和四十六年九月十日  
上田敏明建之

鎌倉

子  
五七







小林家之墓

藤田家之墓

三間家之墓

菅野





石の刻文  
女  
子  
ノ  
墓

坂田家之墓

此官野家之墓

真光院元空親承清幹居士  
真光院明空親承貞順大僧  
清澄院空室正道玉明居士

大正九年九月廿九日

石の刻文  
大正九年九月廿九日

分譲





SEIYU SEIYU

プラス

99%

二十七日丙午年二十三

大田

平





昭和七年十二月  
三宅悦次建之

松尾 喜久  
大正 十一年

長崎 孝三  
大正 十一年

三宅 悦次  
大正 十一年

三宅 悦次  
大正 十一年

三宅 悦次  
大正 十一年

三宅 悦次  
大正 十一年

三宅 悦次  
大正 十一年

三宅 悦次  
大正 十一年

三宅 悦次  
大正 十一年

三宅 悦次  
大正 十一年

三宅 悦次  
大正 十一年

三宅 悦次  
大正 十一年

三宅 悦次  
大正 十一年

三宅 悦次  
大正 十一年

三宅 悦次  
大正 十一年

三宅 悦次  
大正 十一年

三宅 悦次  
大正 十一年

三宅 悦次  
大正 十一年









MAN IN WHITE SHIRT AND CAP

燃えるゴミ  
燃やさないゴミ

Blue metal rack with various items









人形ざんげ  
花はらうし

塚経写

川崎 徳太郎

三束 万太郎

武蔵野小野







